

OB紹介



広島大学 入学センター 准教授
永田 純一 さん

「お仕事について
教えてください。」

入学センターの仕事は、受験生のための進学相談や情報提供
島大学の収入は約700億だそう
です。支出が660億くらい
あって、この 使って
いくかを考え、実 か
いく部署というものが組織とし
ては必要不可欠です。厳密にい

うと違いますが、例 いう

ら、教育を受ける人がサービス

を受ける人、こちらがサービス

の提供者、あるいは研究をする

会社に例えられます。そしてそ

の会社に総務部や人事部などの

部署があるように、広島大学に

もいろいろな部署があるのです

が、教育室、学術室、医療政策

室といった「室」という大きな

くくりの中に、教育を主に担当

があり、その中に入学センター

の両方が所属しています。入試

グループが、職員の方が所属す

るグループで、運営する実際の

事務担当

に身近なところで言いますと、

大学入試センター試験のいろん

な処理をしておられるのがこの

グループで、会場の設定や大学

入試センター試験の本部とのや

りとりをしています。それでは

教員は何をするかというと、広
島大学がど

いきます。今は全学の、主に学

部の入試を担当

単にいえばそういった制度設計

を行う側で、それには非常にシ

ビアな重い所があります。それ

に加えて、広報という学外の人

に広報する仕事もあります。大

学のいろんな学部の内容もある

程度

く、そういう組織です。運営体

制は、センター長、副センター

長が1名、専任教員が他に私も

含めて2名、入試グループに9

名いらっしやいます。その他

に、入試に関する研究を行い、

その内容を論文にして出し

他大学と情報を共有しながら入

試改善の方法を探るといいう仕事

もあります。

「大学入試研究というのは自
分の大学の入試の問題を研究
するということですか？」

そうとは限りません。つま

り、研究対象は入試ですが、分

野は限定されているわけではな

いので、何をテーマにしてもか

究を行ったり、いくつかの大学

が共同で研究をしたりするなど

ということもあります。4、5

年前だったと思いますが

大学、北海道大学、広島大学、

その他いくつかの大学で、共同

研究を実施し、論文等でその成

果が公表

入試というものは成績等のデー

タは簡単には引き出せないよう

になっていて、普通は見られな

いようになっ い

ら、こういうところで公開する

内容

の 人

分からない形で公開、[★] を
れを用
べるなどといったことを行っ
ていきます。

「今のお仕事に

就くまでの経緯は？」

例えば、入試研究というと教
育学系の所を出ないと出来ない
かなと思うでしょう。でも、実
際は、各学部の専門性はもちろ
ん高いですから、いろんな学部
のエッセンスを理解するという
のは、なかなか難しいことで、
様々な分野の人で力を合わせて
研究する分野ではないかと思っ
ます。

私は総科の環境科学コース
(当時は理系2コース、文系2
コースの計4コースで構成され
ていた)を選んで、学部を卒業
して大学院 学 学

で所属した研究室(松田正典教
授)が生物圏科学研究科だった
し、博士課程後期にそのまま進
学しました。専門は物理、数理
系の理論物理学です。研究室で

し、
た。

しかし、みなさん分かれると思
いますが、理論物理といっても
いろんなところが関わります。
だから、総科で軸にしたのはも
ちろん物理学ではあ
別の見方として数理的な手段を
使って考えるということが身に
付いたと思っています。例えば
物理現象を解明するアプローチ
はたくさんあって、化学的な分
析でアプローチする物理化学と

いう分野、生物物理学という分
野とさまざまです。数学的なア
プローチでは、現実に起きてい
る現象を量的に表現して、そこ
を数学やコンピュータを使った

数値計算でアプローチしてい
く
された手法も貪欲に活用す
研究
に前進しているように思いま
す。

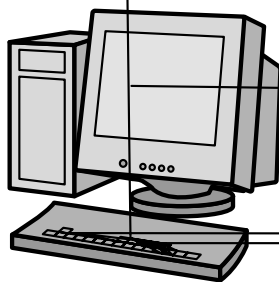
2年間オランダの大学で理論
系のポスドク(研究

活動する職)に就いて、その後、
広大で
きました。常勤職が九州の私立
大学にあったので、ここでは法
学部にも所属し、一般教育や教養、
法学部のゼミを持ちました。法
律の分野でも、数理的な手法を
使ったアプロー
す。データベースを使っ
判例をデータベースにしたりと
いうことをしま

ら言語だけ、文字だけが大事か
というところではなく、情報処
理技術等も必要とされるので、
そういう分野で関わっていきま
す。そして何年か経って、今度

は広島市内の私立大学で、情報
系の学部にも所属しました。今、
こういう入試の研究をしている
のも、ベースにあるのは数理的
な物の見
かコアな部分があれば、大学で

文系の学部にも所属できた
いろいろな場合があるので、な
いでしょうか。



「学生生活で印象に残っていることはありますか？」

私が通っていた頃の総合科学部は、東千田のキャンパスにありました。出身は熊本県で、当時も熊本の人が結構多く、一人暮らしをしていました

りませんでした。それで、お好み焼き屋さんに行っただけですが、広島のお好み焼き屋さんはおばちゃんやおじいさん、おばあさんがやっていて、普通の家庭みたいなので、そういうとても、温かい雰囲気の中で生活してきたあとというのが印象的です。翠町という、広大の附属校があるところです。キャンパスが東広島に移って、の学生街みたいなものも無くなって、みなさんはそういう新しい何かを見つけないといけないと思います。入学センターと

し し

街がありますよということを言いたいの が た は

田という街のなかに住んでいましたから、そういう街の人とふれあう機会も多くなりました。

大学の授業で2コマ目、3コマ目などが空いていると、自転車で近くの映画館に行ったり、食事

行ったり、比治山にお花見に行ったり……。まあ宴会が多いですね(笑)。そんな記憶が多いで



熱心に説明する永田さんと取材陣

「総科で良かったと思うことはなんですか？」

難しいですが、他の学部の人、例

は文学部の学生、デンティティーは得やすいかもしれない。自分が何を専門にしているかが所属学部によって、はっきりしているという点で、安心感があると思います。でもみなさんは、自分の学問的土台は何か？と聞かれたときに、簡

単には答えることができないかもしれません。特に1年生はベースになる専門性に不

自

転がることのできるという総合科学部の強みです。他学部で、トとしては、例えば化学科の学生だったら、化学を勉強しなければならぬというプレッシャーがあ、たモチベーションがあって、そこを深く勉強しやすいということが言えます。他学部では、専門以外の分野には余裕があったらちよつと触ってみようかという姿勢が取られています。総科の学生は、様々な分野の単位を取ることが要求されます。専門の決まった学部にはそこだけに埋もれてしまうかもしれませんが、総科というところで、ある意味強制的にあら

ゆるものに触れさせてください
とわからないことがあるとすれば、そこに動かしてくれる力が
必要です。総合科学部は学部と

してそういう力を働かせて、学
生に様々な分野で生かすこと
できる力を身に
ていると言えるのかもしれない
ん。

「後輩へのメッセージを お願いします。」

総合科学部でよかったことの
ま

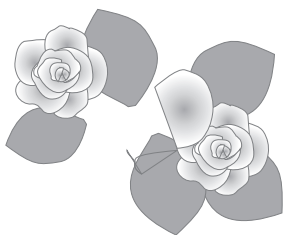
続
のみなさんはどこを自分の土台
とするのか不安に思うことがあ
ると思います。他の学部学科
だったら4年間所属の学問分野
をやったという自負心がありま
す。

はそれぞれが各自の感覚を土台
にすればいいと思うのです。5
人いたら、5人それぞれ考え方
違うように、色んなことへのア
プローチの仕方も違っていいと
思います。他の学部だと同じ学
科のなかで、同じようなアプ
ローチで、ある意味同じ規格品
ができてても学生がそれでいいと
思ってしまうかもしれ
て

も総科の場合は、決まったルー
トがある代わりに、みんな自分

ん。だからこそ自分の感覚を大
事にして、他の人と違うことを
することに怖がらないで挑戦す
るといふような、ある
独立心が必要かもしれない
ね。ただ、そ
躍できる場は限定されないので
はないで

※内容は私見です。先生方、卒
業生の皆様、すみません。(永田)



【担当】

20生 山崎 弦太・山谷 義貴
21生 久住 忠彦・林田 啓誉

平野 詩歩

総科の印象は？

「総科は本当に昔から仲が良かったですね。学部雰囲気がよく良かったです。広大

くらい泊 遠か い

す。あとは、総科に来られる教授陣がす

憶があります。今ではしっかり勉強しておけばよかったですと思いますが……。」

現在の仕事の楽しさは？

「地域計画といっても思い浮かばないかもしれませんが、半分が地域の人とワークショップをしたりとか、企画をしたりすること、あとの半分は、デザインです。実は福岡市内から農村にお嫁に來まして、農村という全く違う環境にきたのがきっかけでローカルを元気にする仕事になりました。こんなすばらしいもの、すばらしい風景があるのに、なかなか伝わらないというのがあって……。その時からちょうどMacと出会って、コンピューターでデザインを印刷所に入れるという時、とうまく折り合って、独学でデザインをやって、

本などを作っています。」

こういう仕事をするときに困ったり行き詰ったりすることはありますか？

「私はもともと

けでもなく、もちろん専門でもありませんでしたし、この業界にいまでも身を置いていません。だからそういうことを教えてくれたのは印

詰めだとか研究したりして古本からたくさんヒントを得ています。だから誰にも習えない、習う人がいないというのが大変でしたね。あまり技巧に頼らずに、文字と写真だけというスタイルができたなら、すごく価値していただけるようになって、今でもずっとシンプルなままでやっています。」



熱心に高山さんの話を聞く編集委員

仕事が行政と

かちあったりしないんですか？

「私の仕事の9割は行政との仕事です。

ぱり行政が変わらないと自分、は変われん。行政は税金で動きま 動

とすごく動いたり、代わりに民間でやると、民間は利益のためにというのがあるからすごく幅がせまくなってしまう。地域住民は本当にボランティアという い
しまう。だからこの3つをうまくコーディネートして、一緒にやって変えていくという

◆一問一答◆

趣味は？

「写真。特に人の写真をよく撮り　　。」

好きな食べ物は？

「塩で握ったおにぎり。こっちにきて本当のおいしさを知りました。水1つで味が全然違う。」

好きなスポーツは？

「散歩。散歩大好き。」

影響を受けた、または好きな有名人は

「いっぱいあります。言葉の仕事をしているので、その都度その都度ですね。」

好きな

「ビートルズです。レットイットビーとか。今でも、彼が生きてたらなあと思います。」

好きな本は

「東京タワー。1冊の中　　の
ことが好きです。」

好きな映画は？

「子育て中でほとんど見てないんですが、小津安二郎さんの映画は好きです。子育て

好きな言葉を（座右の銘など）。

「大変なことにぶつかると、それを思い出します。」

最後に後輩へメッセージをお願いします。

「総合科学部の学べる仕組みが他の学部じゃできないことなので、その体験は、社会に出たときユニークな考えができる基礎をつくっていると思います。なので、どんな所でも生きていけます。いろんなことをしてください。これからローカルはすごく面白いので、中央志向でなく、是非地方にも目を向けて、地域を盛り上げてくれたらうれしいです。」